

熊井の森通信

発行/熊井の森トラスト基金

〒350-0314 埼玉県比企郡鳩山町
楓ヶ丘2-2-1 かわせみハウス
NPO法人はとやま環境フォーラム気付
メール kawasemi3001@gmail.com

☎049-227-3001 FAX049-272-7092 ホームページ <https://hatoyama.info/>

5・6月の活動



▲ピザ窯のあるトラスト3号地を北側から望む

■里山づくり作業

ピザ窯周辺の草刈り

5月20日(土)・21日(日) 両日とも9時半、かわせみハウス集合。

ピザ窯上の3号トラスト地山林裾野の草刈り

6月17日(土)・18日(日) 両日とも9時半、かわせみハウス集合。

※実施内容と実施日程は5月9日(火)フォーラム理事会で再確認します。変更の場合もあり事前にご一報を。

■2022年度総会を開催

5月23日(火) 午前10時～12時、かわせみハウスで、2022年度総会を開催。今年度の活動計画を決めます。トラスト地取得は第1段階の目的は達成し、これから本格的な里山づくりが始動。実は会員はとても少ないです。ぜひ皆さんにも会員になっていただけますようお願いいたします。年会費3,000円。

■エコフェスタ比企in鳩山

5月27日(土) 午前9時 かわせみハウス前で開催。今回で第16回目のバザー。活動資金稼ぎの重要なイベントです。乞う、お手伝い(昼食付)。不要になった品々があれば献品をよろしく。古本・手作りケーキ・リサイクル品な



▲第16回エコフェスタ比企in鳩山(昨年11月5日)

生態系支部から「作業はしないように」と申入れ

4月7日、熊井の森で生き物調査をしている埼玉県生態系保護協会東松山・滑川・鳩山支部から「3号トラスト地の作業はノスリに影響がある距離なので繁殖期は控えていただければと思います」との申入れがありました。同支部には、木こりクラブと奥武蔵MTB友の会と地元の北部地区活性化委員会と共に、2023年度の活動計画概要を送付。それに関しての申入れで、4月の作業は急きょ取りやめました。

「5月以降の作業について理事会で話し合う判断材料にしたいので、①ノスリの生息場所、②作業による影響の程度、③具体的に自粛すべき作業内容(音の出る草刈り機の使用が問題なのか、複数名での作業そのものが問題なのか)、④自粛すべき期間とエリア営業場所、について教えてください」と同支部の小山支部長をお願いしてあります。

どを出店して盛り上げて頂けるならなお歓迎です。



▲この美しい花はなに？

■生きもの学習観察会

6月11日(日) 午前9時～11時 かわせみハウス集合(現地合流可)。熊井の森を歩き、道端で見かけた草木や昆虫、樹木の名前などを図鑑片手にネットなども使って調べ、生きものの知識を自分たちで学ぶ、気さくな観察会です。年4回開催予定。里山づくり作業のためには、そこにどんな樹木や草花があり、どんな生きものが生息しているかをまず把握しておく必要があります。

ましてや、外から来る人を熊井の森に案内するときには、貴重種がどこにあるかの知識は必須です。熊井の森づくりサポーター全員が生きものの知識を備えた優秀なガイドになればいいですね。まずは、熊井の森に親しみましょう。

自然学習観察会のやり方については、生態系支部にもいい方法があるかどうか相談しています。

■第2回熊井の森写真学校

今年度の写真学校は世話人が運営する方式で、参加者元気いっぱい4月22日に第1回目が始まりました。第2回は6月24日(土) 午前9時～午後3時。参加料1500円(1回)。座学会場は従来通りの「かわせみハウス」。撮影場所は、来年2月に開催予定の「写真展」のテーマとの関係もあり、随時変更のため未定です。

5 May

2023 (令和 5 年)

Sun	Mon	Tue	Wed	Thu	Fri	Sat
30	1	2	3 憲法記念日	4 みどりの日	5 こどもの日	6
7 ■資源回収	8	9 ■理事会	10	11	12	13 ■ハト麦作付
14 ■ハト麦作付	15	16	17 ■じゃらん募集開始	18	19	20 ■ピザ窯周辺草刈
21 ■ピザ窯周辺草刈	22	23 ■フォーラム総会	24	25	26	27 ■エコフェスタ比企
28	29	30	31	1	2	3

© ちびむすドリル Inc. このカレンダーは、「ちびむすドリル」(既刊)で無料ダウンロードできます。

6 June

2023 (令和 5 年)

Sun	Mon	Tue	Wed	Thu	Fri	Sat
28	29	30	31	1 おがえ	2	3
4 ■資源回収	5	6 ■理事会	7	8	9	10
11 入梅 ■観覧会	12	13	14	15	16	17 ■辻川右岸草刈り
18 ■辻川右岸草刈り	19	20	21 夏至	22	23	24 ■第2回写真学校
25	26	27	28	29	30	1

© ちびむすドリル Inc. このカレンダーは、「ちびむすドリル」(既刊)で無料ダウンロードできます。

活動報告

■トラスト7号地の取得契約完了

4月6日、かわせみハウスで、田中亮司法書士の立会いのもと、売主・(株)郡慶の吉川典和社長と売買契約を交わし、石場沼の上部に接する谷津2筆(山林3871㎡)をトラスト地として取得しました。これでトラスト地は賃貸山林も含めて12か所27,254㎡(約2.7ha)となりました。

■公益信託武蔵野銀行みどりの基金助成金贈呈式に出席

4月14日、さいたま市のパレスホテル大宮で催された2023年度(第31回)みどりの基金助成金贈呈式に、「エコ田んぼNORA」「NPO法人つるがしま里山サポートクラブ」など12団体と共に参加してきました。助成額は10万円。野鳥に配慮したエンジン音の小さい充電式草刈機の購入に当てます。

■「埼玉未来大学」から講師依頼

埼玉未来大学は、30年以上の実績のある「彩の国いきがい大学」を引き継ぎ、令和2年に創設された埼玉県主催の学びの場です。人生のセカンドステージを自らデザインし、生涯現役で活躍しようとする50歳以上の方々の「学び直し」と「再チャレンジ」を応援しています。その運営組織から、「地域の課題と取り組み(人生100年時代における市民活動のすすめ)」をテーマにした講演依頼がありました。開講日は令和6年2月8日。会場はウエスタ川越の西部学園、定員130人。

■練馬ボーイスカウトがテストキャンプ



4月22～23日、ボーイスカウト練馬6団の菖蒲谷団長ら4人が熊井の森ピザ窯の栗林でキャンプ。さすが、アウトドアライフのベテランの皆さん、楽しそうにやっておられました。ビールを差し入れて、ほうとううどんのお相伴。旨かった!

■タケノコ掘りイベントに大人23人が参加

4月22日、「新鮮なタケノコを味わおう!」イベントを開催。定員20人のところ、大人23人が参加(3人はやむなくお断り)。地元鳩山在住は6人で、与野市、川越市、日高町、東松山市と町外参加者が17人。今年はタケノコは予想外の不作でしたが、タケノコ掘りを体験してもらえる本数はどうか見つかり、ひと安心。タケノコ汁は好評でしたが、焼きタケノコは火加減に失敗して、味はイマイチだったのが残念。それでも参加者の皆さんにはタケノコ掘りを満喫していただけたようです。利根川さんの解説



も好評。スタッフは6人。来年に向けたモニター企画としては手ごたえ十分でした。

■令和5年度森林ボランティア育成事業の補助金申請へ

埼玉県内の市町村や森林ボランティア団体等と森林所有者との合意に基づく森林づくり活動を支援する「森林ボランティア育成事業実施要綱」に基づき、補助金申請を行います。補助金額は初年度25万円、2年目から4年間は各年10万円。里山づくりの基礎データとなるトラスト地を含む熊井の森全体の生きもの調査と最低限必要な散策路整備費用が予定申請事業です。

「鳩山SATOYAMA写真展カタログ」販売中

昨年10月に鳩山町町制施行40周年記念事業として開催した「鳩山SATOYAMA写真展」のカタログ小冊子を販売中です。鳩山町石坂の森、熊井の森、高野倉、赤沼などの四季折々の風景のほか、野鳥・昆虫と草花のネイチャーフォトをはじめ、鳩山町の今昔比較写真や亀井・熊井地区の坂東武者の錦絵などが掲載。鳩山町の自然財産の魅力をj知る格好の小冊子です。

A4サイズ、48頁、オールカラー。頒布価格 400円(郵送の場合、別途、1部215円)



「年暮る森」 —— 熊井の森を描いて

一水会会員 池田竜太郎

昨年の秋、熊井の森を知り鳩山の市街からそう遠くないところに深い緑の森のあることに驚きと喜びを感じながら森に分け入り描きました。

森の中ほどには天然の樅の木の大木があり、落ち葉を踏み深い緑の色合いの中で心が落ち着き、深い安息の感覚の中でゆっくりと心が満たされていく感覚を味わいました。

森を進むにつれて増してくる湿り気と分解者によって土になっていくことに由来する葉土や倒木の匂いやキノコの匂い、その土を養分として育つ針葉樹や広葉樹の香りが充ち、それらが混然となって森の気配を深くしていく。里山の森は適度の人の手と自然の樹木が共存している、地元の人はこちらを森ではなく山と呼ぶ所以でしょう。森全体に取り囲まれて山を進んでいくと絵を描く人としての自らが何かに反応して美しいと感じる。緑の密集感や密度感、それらの中での距離の感じ、木々の密集のその間から遠くの木々が距離を感じる形で見えるときに美しいと感じることが多かったかもしれない。

しかし何故そう感じ何がそう感じさせるのかはわからない。人間が持っている太古からの記憶などの何かが美しいと感じさせ、心に充足の感を味わわせるのかもしれない。



▲作品写真「年暮る森」2023年 90cm x 90cm 油彩

太い大きな木が生えるその懐には空間ができ足元に小さな苗木が生えている、大きな木々に囲まれているという安息の感じと背丈を少し越えたほどの針葉樹の持つ細く繊細な感じに美しさを感じる。杉檜の大木の森の懐でそんな苗木が成長して森をなしているのに出会った。森の中でぽっかりと空いた空間に次の世代の森が形成されている。何かが育つ気配を感じ毎日現地に

にキャンバスを運んで制作した。土と葉を踏み、森を見ながら絵を描く。毎回描き初めは少し造形的な要素も考えもするが少し経てば森をただ感じながら描いている。何も考えることなくただ絵の具をつける時間が訪れてくれればその日はとても幸せだ。

人間は平原に出るまでの長い間、森に揺籃されて生活していた。時に森を訪れ深く癒される時間を持つことは人にとって大切なことだ。作品を見る人に私が森に入った時に感じた何かを感じてもらえるような作品を描けたらと思います。今回作品は一水会精鋭展という展覧会で3月に発表いたしました。



▲2022年開催の一水会展最高賞の「一水会優賞」受賞作品の展示会場にて作品は埼玉大学収蔵

【プロフィール】一水会会員、日本美術家連盟会員、
●受賞歴 一水会展にて2003年有島生馬奨励賞、2005年安井曾太郎奨励賞、2021年日美賞、2022年一水会優賞、2023年一水会委員推挙。
●海外個展 2010 CANARY WHARF London. 2011, 2014 Celia Lendis Gallery (England).
●海外展示 2011, 2012 London Olympia Fine Art Fair. 2015 Royal Academy of Art (London). 2015 Royal Collage of Art British Art Fair (London). 埼玉医科大学国際医療センター作品所蔵（2F画像受付横）
●海外滞在スペイン2年、英国5年。

ニホオ 熊井の森歳時記

森のシャンデリア



2年前、熊井の森で上田恵介先生の観察会に参加した際に、山道に落ちてたエゴノキの花と出会った。実は、家隣の公園にも窓からちょうど眺め良いところにエゴノキがある。木の枝からぶら下がっているように水滴状の蕾が咲くと、星形の真っ白な小花が雪のように木全体を覆う。まるで自然界のシャンデリア。風に当たると、花がくるくると回りながら落ちていく姿がかわいらしくて、何度見ても飽きない。散る際に木の下が真っ白い花で埋め尽くされる様子は、まさに花言葉の通り「壮大」である。

エゴノキは落葉高木で、日本中に日当たりのいい雑木林の縁に自生している。エゴノキという名前は楕円状の果実の皮をかじると苦みが強く喉にえぐみを感じることから付いたか、残念ながら試食の勇気が全くない。中国では、花の模様が香りのどちらかがジャスミン（茉莉）に似ているので「野茉莉」。

エゴノキは大変実用的な樹木でもある。果実や花に含まれるエゴサポニンには泡立ちがいいので石鹸として用いられた。種の油は機械の潤滑油にしたり、搗り潰して川に流してマヒした魚を捕るという魚捕り方法もあったという。知れば知るほど、ますますエゴノキが好きになった。(王 菲)

熊井の森畑日記 ハトムギものがたり③

2年目の夏は水やりで汗だく

2年目の2022年は、初めての苗づくりに挑戦した。昨年は渡部さんから苗を頂いたが、今年は発芽させることから教えてもらった。

昨年収穫したハトムギを選別する時に選び出した、丸々と育った1000粒を、4月中頃に、まず40℃の湯に一晩浸し、翌日に大きいプランター3つへ撒いた。水やりをし、保湿保温のために新聞紙をかぶせた。10日ほど経つとたくさんの芽が出てきた。「おーすごい」。次は防虫対策のためにネットをかける。たくさんの苗が育って、ほっと一安心。5月中頃に2日間かけて、7人で植えつけ、無事にスタートできた。

その年によって天候はいろいろ変わる。2021年は植え付け後、日照りが続いて暑く乾燥した年だった。あまりにも雨が降らないので、水やりをしようと考えたが、すぐ近くには川も用水路もない。そこで、少し離れた所にある川や用水路からバケツで水を汲んできて、ジョウロで撒くことにした。5、6、7月、汗だくになりながら、水やりや、草引きを数回行った。



この年の畑仕事はとにかく暑かった。

でも、翌年は、苗植え後に適当に雨が降ってくれて、苗の育ちを心配しなくてよかった。同じ時期なのに、昨年と全然天候が違う。自然相手ということは予想がつかないことだらけ。やはり、自然に合わせていくしかないんだな、と納得した。(嵯峨 千代美)

熊井の森トラスト地紹介 第3号地



地番／鳩山町熊井1495
面積／2973㎡ 地目／山林
取得年月／2021年10月

上熊井集落センターの正面に見える里山。北側斜面には、大きなモミの木がすくくと立ち、散策路を少し登っていくと右側にスダシイ(写真)の太木があり、アナグマの巣穴と思われる複数の穴が点在する。東山沼の用水路(辻川)の護岸の一部区間が整備され、左岸に幅1.5mの散策路が付く予定。完成すれば、上熊井農産物直売所(通称 ちょっくま)を訪れた人たちにとって、熊井の森を堪能する格好の散策路となるだろう。手前の栗林にピザ窯を置かせていただき、様々なイベントを行っている。多くの人に里山の自然に親しんでもらいつつ、同時に自然保護をいかに図っていくか。課題は山済みである。



ている。多くの人に里山の自然に親しんでもらいつつ、同時に自然保護をいかに図っていくか。課題は山済みである。

熊井の森へのアクセス



ここは、第15～17期ナショナル・トラスト活動助成金(令和元～3年度)により、特定非営利活動法人はとやま環境フォーラムが取得した森です。

【バス】東武東上線「高坂駅」西口広場で町営路線バス「越生駅・上熊井方面行」8:15発(約20分)に乗車→「上熊井」バス停下車、徒歩3分。

【クルマ】関越自動車道坂戸西スマートIC下車→鳩山町役場→鳩山駐在所を左折し県道41号線を越生方向に走ると、左側に上熊井農産物直売所(ちょっくま)あり。そこから熊井の森へ。

熊井の森トラスト基金へ支援金を

■ゆうちょ銀行 振替口座
記号番号 00210-4-143207
加入者名 熊井の森トラスト基金
■ゆうちょ銀行 支店 〇三八 普通口座
口座番号 9472664
口座名義 クマイノモリトラストキキ
(熊井の森トラスト基金)

活動雑記 ”世話人” による運営となる写真学校ですが、環境フォーラムはこれまで通り主催団体としてサポートします。初参加の方が三森先生の生き物の豊富な知識に裏づいたフォト指導に驚嘆。

池田竜太郎さんの作品を展覧会でじっと見ていたら、熊井の樹林の奥に感じられる神秘的なものに惹きつけられました。直接作品を鑑賞する機会が訪れたら、是非それを体感して下さい。(愛場)